

いないグレースケールによる心筋コントラストについて検討中である。

2 本院における画像オーダーリングシステム (HIS・RIS・レポートニング) の構築と運用

木村 元政・荒井 誠	
野口 栄吉・土橋 幸夫	
大越 幸和・見田 勝子	
小山ひろ子・熊倉 每美	(新潟大学医学部附)
山本 哲史・酒井 邦夫	(属病院放射線部)
羽柴 正夫	(同 医療情報部)

平成11年度通常予算での病院情報システム (HIS; NEC) 更新, 同 CR 更新に伴う放射線情報システム (RIS; 富士メディカル) の導入および補正予算での患者情報管理システム (含む放射線レポートシステム; 横河電機) 導入により, 検査依頼から会計・診断報告書作成まで一連の画像オーダーリングシステムが構築され, 平成12年10月より運用が開始された。各々のシステムは別予算ではあったが, 仕様作成時期がほぼ一致していたため, 各システムの接続は比較的安価にできた。HIS 画像オーダは医療情報運営委員会のワーキンググループが, RIS 画像オーダは放射線部技師グループが, レポートシステムは放射線科画像診断医グループがそれぞれ担当した。導入に際して, 患者の流れは基本的に現行どおりにし混乱を避け, 利用者 (依頼医師・受付・放射線技師・診断医) からの意見をできるだけ取り入れ, 院内合意を計ったため, ほぼスムーズに運用されている。

3 イレウスにて発症した小腸カルチノイドの一例

大井 博之・尾崎 利郎	
松月 由子・伊藤 猛	(長岡赤十字病院)
西原眞美子	(放射線科)
佐藤 明人・広瀬 慎一	(同 内科)
島影 尚弘・若桑 隆二	
岡村 直孝・田島 健三	(同 外科)

小腸カルチノイド腫瘍は欧米では最も高頻度な小腸悪性腫瘍であるが, 日本では小腸悪性腫瘍の2%を占めるに過ぎない稀な腫瘍である。他部位のカルチノイド腫瘍に比べ大きなものが多くイレ

ウス等の腹部症状, 転移を起こしやすく予後も不良である。

早期濃染を呈する粘膜下腫瘍で転移リンパ節が高率に認められる。本例も腫瘍周囲に濃染するリンパ節が指摘できた一例である。

4 肺癌小腸転移の一例

阿部 英輔・中川 範人	(厚生連長岡中央総合)
塚田 博・佐藤 敏輝	(病院放射線科)
稲田 勢介・富所 隆	(同 内科)
大橋 泰博・吉川 時弘	(同 外科)
相馬 孝博	(同 胸部外科)

症例は70歳男性。67歳時に肺腺癌と診断され右肺上葉切除術を受けた。術後より徐々に貧血が進行した。便潜血反応は陽性だったが出血部位を同定できず, 輸血にて対処していた。術後2年目の腹部CTにて小腸腫瘍が認められ, 腫瘍摘出術が行われた。腫瘍は単発性の低分化型腺癌で, 組織像が67歳時の肺腺癌と類似しており, 肺腺癌の小腸転移と考えられた。

小腸転移はCTや超音波で捕らえ難く予後は不良とされるが, 今回の症例のように単発性で比較的早期に発見された場合, 腫瘍摘出によって長期生存が期待できる。便潜血反応は消化管転移の比較的早期に陽性になることが多く, 出血部位が特定できない場合には小腸転移を念頭において検索を進めるべきと考える。

5 結節性硬化症に肺癌を合併した一例

中川 範人・阿部 英輔	(厚生連長岡中央総合)
塚田 博・佐藤 敏輝	(病院放射線科)
岩島 明	(同 内科)
相馬 孝博	(同 胸部外科)

結節性硬化症は, 腫瘍抑制遺伝子を有する9番染色体長腕, 16番染色体短腕の各連鎖によって多臓器に腫瘍性病変が生ずる疾患で肺病変としては, 一般にリンパ管筋腫症が挙げられる。

症例は, 検診で肺癌が見つかった51歳女性。特徴的な顔面皮疹, 多発する両腎血管筋脂肪腫, 側脳室上衣下結節を認め, 結節性硬化症と診断され